

◆ tekuteku2015★行田足袋蔵めぐり2015企画（活動記録＋評価結果）◆

企画■足袋蔵の町・行田の蔵を巡り、まちを歩く ～ぎょうだ蔵めぐりまちあるき2015～

日時■2015年5月16日（土）12:40～16:30

コース■行田市駅＜集合＞～足袋蔵まちづくりミュージアム栗代蔵＜受付＞～武蔵野銀行～足袋とくらしの博物館～牧禎舎（藍染体験工房）～忠次郎蔵（手打蕎麦処）＜昼食＞～足袋蔵ギャラリー門～大澤蔵～奥貫蔵（蕎麦あんど）～イサミスクール工場～小川源右衛門蔵～旧忍町信用組合（ものづくり大学）～今津蔵～新町ほっとステーション～翠玉堂～百万石本店～保泉蔵～足袋蔵まちづくりミュージアム＜記念品交換＞～カフェ閑居＜意見交換＞ ※開放された16の蔵・建物すべて訪問

参加者■◎大竹 亮、井手幸人、栗原 徹、鈴木丞治、渡真利紘一、山田絵美、鷲沢なつみ  
（以上7名、敬称略、◎コーディネーター）

協力者■朽木 宏氏（NPOぎょうだ足袋蔵ネットワーク）

企画主旨■行田は、かつて全国一の足袋の生産地であり、中心街には往時の繁栄を伝える多くの蔵が残っています。この特有の「足袋蔵」を活かし、まちづくりにつなげていく動きが「NPOぎょうだ足袋蔵ネットワーク」を中心に進められています。現在までに4棟の建物（足袋蔵まちづくりミュージアム栗代蔵、足袋とくらしの博物館、忠次郎蔵、牧禎舎）を保存活用するとともに、開放された蔵や建物を巡るスタンプラリー（蔵めぐりまちあるき）を毎年開催しています。これらの活動を通じて、市内随所に残る足袋蔵の存在を市民に知ってもらい、足袋蔵所有者に蔵の常時開放を働きかけています。全国的に中心市街地の再生が課題ですが、行田が最も行田らしかった頃の近代化遺産である足袋蔵を再評価し、市民が手づくりで取り組む一連の活動は、地域独自のまちづくりとして非常に興味深い試みです。今年も恒例の「ぎょうだ蔵めぐりまちあるき2015」が開催されますので、一緒にまちなかの足袋蔵を捜し歩き、まちづくりの手ごたえを感じとりましょう。



足袋蔵まちづくりミュージアム栗代蔵から出発



まちなかに点在する多彩な蔵を見て歩く

＜参加者の意見・評価＞

（注）評価は、A：非常に良い B：良い C：普通 D：良くない  
の4段階。コメントは、評価の理由、感じたこと、考えたことなど。

1◆行田中心街全体について

評価:3.57 内訳:AABBBBBB

評価A：住まい、商店、歴史的な建物といったもののバランスがとても良いと感じました。ハレ（非日常）とケ（日常）のバランスといいたいでしょうか。

評価A：今回初めて行田を訪れましたが、中心街は歩道もきれいに整備されており、街中もとても開放的で、とても歩きやすい街だと感じました。静かにたたずむ蔵や家屋、街の至るところに転じされているモニュメントなど、どこを歩いても、様々な発見や気づきを得られる街だったように思います。

評価B：一見すると普通の街だが、よく見ると蔵やいい建物が点在しており、徐々にカフェなどの魅力的なスペースも増えてきている。

評価B：コンパクトにまとまって歩いて回るのにちょうどいい。蔵の活用が進み、魅力が増しつつある。

評価B：コンパクトな町並みに蔵が散りばめられていて、宝石箱のような愛おしい雰囲気です。ただ、全体としての纏まりに今ひとつ欠けている感じが残念でした。

評価B：歴史的な価値のある足袋蔵を大切に維持・活用しようという姿勢が伝わった

評価B：大きく変わっていないことが良かった。

## 2◆ぎょうだ足袋蔵めぐり2015に参加して

評価:4.43 内訳:AAAAABB

評価A：スタンプラリーによって様々な蔵を体験でき、11年も継続してきたことでネットワークが拡大し、毎年新たな発見があるのが素晴らしい。

評価A：歩ける距離にランドマーク（足袋蔵や工場）があり、大通りの一本裏は、タイムスリップしたかのような懐かしい風景もみられたところ。今回のイベントがなければ、その裏通りの風景を見つけることができたかどうかということを思った。ラリーが楽しく、きちんと魅力を伝えてくれた。

評価A：以前より参加している蔵が少なくなっていたので、盛り上がりには欠けていましたが、受け入れてくれる蔵等のオーナー、スタッフ等方々が慣れてこられたなと感じました。

評価A：スタンプラリーに物語性を持たせるなど、町並みのハードと、見せ方のソフトの融合が見事でした。

評価A：イベント時に訪問できたこともあり、普段拝見できない建物の中が見られたり、お話をじっくり伺えたりする機会をいただけて、目、耳、口など五感が全て満たされました。

評価B：開放された蔵の形や構造が様々で興味深い。また活用方法も多彩で、回っていて楽しい。

評価B：今回初めての参加でしたが、とても楽しく参加させていただきました。特に、蔵と蔵の距離がそれほど離れていないので、大変歩きやすかったです。ただ、今回は時間があまりなかったのでゆっくりと一つ一つの箇所を見学することができなかったのがとても残念でした。また、その時々発見もとても素晴らしいことですが、町の歴史について事前に知識があれば、もっともっと街歩きを楽しむことができたのではないかと思います、その点は自身の次回の課題であると感じています。



足袋工場を転用した「足袋とくらしの博物館」



職人の実演もある足袋とくらしの博物館内部

## 3◆特に印象に残った場所は？

足袋とくらしの博物館★足袋工場の建物や資材をそのまま使い、職人さんが実演するのでとても臨場感がある。

足袋とくらしの博物館★レトロなんだけど、まだ現役なのが凄い。

足袋とくらしの博物館★工場がそのまま使われていることにびっくり。

忠次郎蔵（手打ち蕎麦処）★店蔵を活用した蕎麦処で、行田名物ゼリーフライも食べられるのはうれしい。

忠次郎蔵（手打ち蕎麦処）★

牧禎舎（藍染体験工房）★住居、作業場、離れという3棟の建物をうまく使って複合施設になっている。

日和カフェ★こういう小さなカフェが、街の新たな可能性を生み出すような気がする。

日和カフェ★若い方がリノベして開いたカフェは健在！！

足袋蔵パン工房 rye（ライ）★蔵めぐりの楽しみパン工房 rye のパン。残念ながら売り切れでした。

足袋蔵ギャラリー門★外観と内部のモダンさのギャップが新鮮。

足袋蔵ギャラリー門+カフェ閑居周辺★蔵がある一帯で残り、しかも日常の中で生きている感じが良かった。

カフェ閑居★建物も庭も非常に美しく、ゆったりとくつろげる雰囲気素晴らしい。

カフェ閑居★建物と庭の調和がとても上品。

カフェ閑居★

大澤蔵★所有者の方から直接お話を聞いた。

大澤蔵★持ち主の方に直接お話を伺えるのが良かったです。ご商売が、その「誇り」とともに次世代に伝わっているのはすごい。

奥貫蔵（蕎麦あんど）★今年飲食店として生まれ変わった蔵、これに続く蔵はどの蔵か？

奥貫蔵（蕎麦あんど）★例年開放されている蔵が、見違えるようにリノベーションされて素晴らしいお店に。



奥貫蔵（蕎麦あんど）★蔵を活用したセンスの良い空間で、美味しい食事やお酒が楽しめる。この店ができたことで、街に新たな魅力が加わったと思う。

イサミスクール工場★中の見学は出来ませんでしたが、足袋蔵が単なる歴史ではなく今に続く生活文化であることを実感させられた場所でした。

旧忍町信用組合★例年のものづくり大学の展示が興味深い。品格ある洋風木造建築なので、さらなる活用を。アーティストアトリエとしての活用等★取り壊すのではなく、若い人が蔵等を活用できるような選択肢をつくっていた。



足袋蔵ギャラリー門に併設された「カフェ閑居」



カフェ閑居で庭を眺めつつ蔵めぐりをひと休み

#### 4 ■今後の行田のまちづくりや蔵めぐりまちあるき、建物の活用方法についてのアイデアなど

●行田のまちづくりは、これまで通り、蔵めぐりを継続しながら、少しずつネットワークを拡げてゆくのが良いと思う。次のアイデアとしては、旧忍町信用組合の建物を活用して、ワインが飲めて時々ジャズライブも出来るような店があるといいのでは。

●毎回、蔵めぐりの時に来ているが、NPOの運営建物4棟に加え、カフェやパン屋、菓子舗などもあり、さらにリノベーションされた蕎麦処が民間ベースで誕生したので、普段魅力的なまち歩きができそう。蔵めぐりを常設イベントとして、時期をずらしてそれぞれの蔵の開放をお願いするのも一案では。

●コンパクトな町並みに蔵が散りばめられていて、またストリートファニーニチュアも豊富で、これらのキラキラが街という洋服にスパンコールのような効果を与えています。しかし、残念なことにそれぞれが勝手に光っていて少しバラバラな印象を受けました。なにか共通のアイコンなどを整備して、統一感が出ればもっと素晴らしいと感じました。

●運営が大変でしょうが、やはり一緒に歩いて街のことや蔵のことについてお話いただける方が一人いると、より街歩きの深みが増すのではないかなと感じました。また、せっかくの機会ですので、地元の方ともっと触れ合える機会も欲しいなと思いました。活用方法については、あまり具体的な案が思いつきませんが、蔵独特の空間を活かすという意味では、やはり映像の上映や精神を鎮めるような空間の1つとして利用できると素敵だなと感じました。風通しが良く、日光もある程度遮断することができる空間という意味では、ブックカフェのような、何かを保存しつつ、そのものを楽しめる空間が提案できると素敵だなと思います。

●蔵もそうですが、やはり「足袋」は古いようで新しいウェアだと思うので、そのイメージを強調するのが良いかなと思いました。月に1度、足袋の日「TAB I - DAY」を実施する。足袋を履いている人には特典が！とか。teku-tekuとしては、やはり足袋を履いて「まち歩き」でしょうか。使い古した足袋を繋げて作品にする（奉納の意味も込めて最後におたきあげる）。など

●若い人など面白い人が移住してくるとますます楽しい町になると思いました。蔵やスペースのシェア活用などの発信、期間限定でアーティストインレジデンスを行う等。地元の人が運営するサロンカフェのようなものがもっとできると、いいと思いました。他の蔵の町との連携はどうなっているのか、気になりました。まだわからないことも多く、魅力がきつとまだまだあると感じます。またもう一度行きたいです。←来た人はきっとそう思っています。その時にどのように定期的に来てもらえるような仕掛けができるか（参画できるようなイベントを夏・秋・冬に？）。点を線での関わりに変えていくためのきっかけづくり。←地域通貨の活用。僕も勉強中です。

●あちこちに空地が目立ってきました。次は、こうした空地にできる施設と既存の蔵の活用をうまく連携するかも、課題の一つではないかと感じました。



奥貫蔵が生まれ変わった蕎麦あんど



路地に入ると多くの蔵が佇んでいる

## 5 ■今回の企画についての感想など

●行田の街は、来るたびに少しずつ変化しているのを確認するのが楽しみになっている。今回は、最後に奥貫蔵の蕎麦あんどで飲むこともできて、とても充実したまち歩きになった。(K・T)

●はじめての参加でしたが、大変有意義な時間を過ごすことができました。街並みや建物から歴史をひも解き、昔に歩み寄っていく時間は、とても楽しく、また少しタイムスリップしたような、不思議な感覚を味わうことができました。みなさんの解説もとても学びが多く、街歩きをより一層楽しむことができたように思います。短い時間でしたが、ご一緒できて楽しかったです。本当にありがとうございました。(W・N)

●今回、ボンネットバスと藍染体験ができなかったのが残念でした。(I・Y)

●蔵をリノベした飲み屋、もう一度訪れたいです。(S・J)

●行田のまち自体初めて伺いましたが、足袋という伝統産業が今も息づいていることが何より心に残りました。また、NPOの皆様はじめ建築家の方、職人さんなど役者がそろっていることも印象深かったです(うらやましい)。足袋蔵ネットワークさんで蔵のマップを作られていることもあり、面的に蔵・足袋が印象に残ったのだと思います。(Y・E)

●藤野・地域通貨「よろづ屋」は参考になるかもしれません。(T・K)

<http://fujinovorozuya.jimdo.com/> (紹介記事 <http://greenz.jp/2015/12/14/localcommunity-class03/>)

## ■コーディネーターより

行田足袋蔵めぐりに参加したのは今回で4回目ですが、いつも結局すべての蔵を巡ってしまいます。中心街がコンパクトなのと路地から路地への散歩が楽しいこと、そして何よりそれぞれの蔵が色々な開放のされ方を工夫していて興味が尽きないからでしょう。また、年々蔵の活用が進んでいると感じていますが、今回は例年訪れる大きな奥貫蔵(ボンネットバス乗場)が、みごとにリノベーションされてお洒落な蕎麦処になっていました! NPOによる管理運営だけでなく、民間商業ベースでの再生活用が進み始めたのは心強い限りです。朽木さん、お忙しい合間にご案内ご説明をくださり、大変ありがとうございました。参加された皆さん、お疲れさまでした。また一緒に行田を訪れましょう!(O・R)



足袋とくらの博物館前にて



すべてのスタンプを集めて記念品をゲット!